

## 第1編 序 論



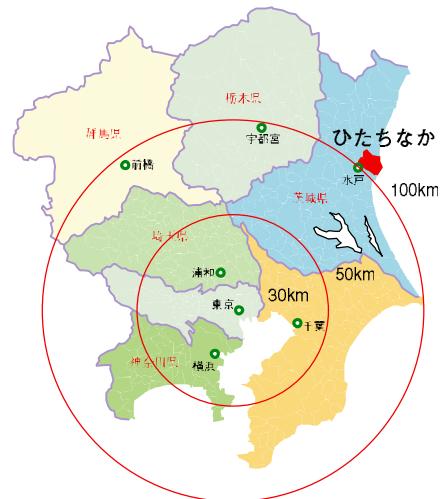
小中学校絵画「私たちの住みたいまち」  
優秀賞 中根小学校4年 薄井 めるみさん

## 第1 ひたちなか市の地理的概況

### (1) 位置

本市は、東京都心から110kmの距離にあり、その中心は東経 $140^{\circ}32'$ 、北緯 $36^{\circ}24'$ で、茨城県の中央部からやや北東に位置しています。

本市の東は延長13kmの海岸線で太平洋に面し、海岸線に続く1,182haに及ぶ一帯はひたちなか地区として、国営ひたち海浜公園や重要港湾・茨城港常陸那珂港区、工業団地などの開発が進められています。また、北は、わが国原子力発祥の地として多くの研究機関が集積する東海村に、西は、世界的な核融合実験施設が所在する那珂市に、南は、那珂川を隔てて、県庁所在地である水戸市と、海を生かした観光と漁業のまちとして知られる大洗町に接しています。



### (2) 地勢・気候

本市の総面積は99.07m<sup>2</sup>であり、県全体面積の1.6%を占めています。

市内の大部分は、阿武隈山系から南東に緩やかに傾斜する海拔30m前後の那珂台地で、JR勝田駅を中心に住居や工場群が広がり、その間に中小河川がくさび状に入り込んでいるほか、周辺には畠地や平地林、斜面緑地などの豊かな緑も残されています。また、那珂川の河口沿いには、漁港を中心とした市街地や水田地帯が形成されています。

平成17年度から5年間の年間平均降水量は1,285mm、平均気温は14.3℃であり、四季を通じて晴天が多く、降雪も少ない、温暖で過ごしやすい典型的な東日本型の気候です。

風向は、春から初夏にかけては北東風が、冬は北西風が最も多く、平均風速は毎秒2.2m程度となっています。

## 第2 第2次総合計画の意義と役割

平成6年11月に勝田市と那珂湊市の合併により誕生した本市は、「国際港湾公園都市」を将来都市像とする「ひたちなか市総合計画」を策定し、各種施策を推進してきました。

合併から10年余を経過し、経済の長期低迷や地方分権の進展など、本市を取り巻く情勢は大きく変化していることから、時代の潮流や市民意識の変化に対応した、新たなまちづくりのビジョンとして、平成18年度から平成27年度の10年間を展望した「ひたちなか市第2次総合計画」が定められました。

この計画は、本市の現状と課題を踏まえ、将来の目指すべき都市像とこれを実現するための目

標や基本方向を明らかにするとともに、市民と行政の協働により、それが自らの役割と責任においてまちづくりを推進するための最上位の指針であり、市政運営にかかる各部門別の計画や事業等の基本にもなるものです。

## 第3 第2次総合計画の構成と期間

### ①基本構想

基本構想は、まちづくりの基本的な考え方や目指すべき都市像を明らかにするとともに、まちづくりの基本目標やこれを実現するための施策の大綱などを定めるものです。

この構想は、総合的かつ計画的な市政運営の指針とするため、その計画期間を10年間とします。

### ②基本計画

基本計画は、基本構想に掲げる施策の大綱を具体化するため、各分野の主要な事務事業などを明らかにするものです。

この計画は、前期計画、後期計画に区分するものとし、計画期間をそれぞれ5年間とします。

今般、前期基本計画の計画期間が満了の時期を迎えたことから、総合企画審議会や市政懇談会、市政モニター、パブリック・コメントなどにより広く市民の意見を取り入れながら、平成23年度から平成27年度までを計画期間とする「後期基本計画」が策定されました。

### ③実施計画

実施計画は、基本計画に掲げる主要な事務事業について、実効性と弾力性を確保しながら進行管理するため、事業の具体的な内容や達成目標などを定めるものです。

この計画は、社会経済情勢の変化に柔軟に対応するため、その計画期間を向こう3年間とし、予算編成の基本となるものとして、毎年度に見直しを行います。

### ●総合計画の構成と期間



## 第4 基本構想の概要

### 1 まちづくりの基本的な考え方（抄）

ひたちなか市は、海と緑に代表される豊かな自然、多様な産業、快適な都市環境、ひたちなか地区開発など、将来の発展可能性に満ちあふれています。

少子高齢化の進展や経済の低迷、地方分権型社会への移行など、大きな転換期の中で、安定した雇用や都市経営のための財源を確保するとともに、独自の魅力と個性を發揮する自立性の高いまちとして、豊かでいきいきとした社会を築き上げていくために、本市の恵まれた条件と地域の資源を最大限に活用しながら、市民と行政の協働のもとに、戦略性を持ってまちづくりを進めることが重要です。

そのためには、

第1に、地域の経済と雇用を支える産業の活性化を図っていくことが必要です。

- ・工業、商業、農業、水産業などのさまざまな産業のバランスよい発展
- ・ひたちなか地区の土地利用や先端産業などの立地促進
- ・茨城港常陸那珂港区を拠点とした物流の活発化、新たな産業の創出
- ・中心市街地での住宅の集積、魅力ある商店街づくり

第2に、将来の世代が安心して暮らせる、身近な生活の基盤を充実させていく必要があります。

- ・美しく豊かな自然環境との調和
- ・災害に強い、人にやさしい安全で快適な都市基盤の整備
- ・各世代にわたって必要とされる教育、福祉などのきめ細かな公共サービスの充実
- ・子どもを生み育て、住み続けたくなる魅力に満ちたまちづくり

第3に、地域の個性を高め、にぎわいと活力を生み出す、さまざまな交流機会をつくっていくことが必要です。

- ・全国から多様な人材が集まる本市の特性を生かした市民相互のネットワーク
- ・信頼のきずなのもとに互いに暮らしを支え合う、自立ある地域社会づくり
- ・観光・イベントや国際交流などを盛んにして、郷土への誇りと愛着を深める
- ・他の人々との触れ合いの中で、幅広い視野と人間性を養う

これらにより、新たな知恵と工夫をもってまちを発展させていく、元気あふれるひたちなか市としていきます。

## 2 目指すべき都市像

まちづくりの基本的な考え方に基づき、暮らしたくなるまち、暮らし続けたいまちをつくるため、ひたちなか市の目指すべき都市像を次のように定めます。

「豊かな産業といきいきとした暮らしが広がる  
世界とふれあう自立協働都市」

## 3 まちづくりの基本目標

目指すべき都市像を実現するため、5つのまちづくりの基本目標を定め、総合的かつ計画的なまちづくりを進めます。

### (1) 多様な産業が発展しにぎわいあふれるまちづくり

産業基盤の整備や就業者の福利厚生の充実を図るとともに、異業種間の連携・交流の強化や担い手の育成・確保などにより、工業、商業、農業、水産業などの均衡のとれた産業の発展を実現させます。

また、既存産業の新分野への進出を支援するとともに、ひたちなか地区への企業誘致を積極的に展開し、地域の未来を担う新たな産業の創出・育成を図ります。

さらに、商店街の活性化や観光の振興により、魅力に満ちたにぎわいのあるまちづくりを進めます。

### (2) 機能的で潤い満ち安全に暮らせるまちづくり

道路や港湾、河川、上下水道などの都市基盤を、その緊急性・重要度に即して整備し、機能的な都市づくりを進めるとともに、秩序ある土地利用と計画的な市街地の整備を推進し、生活者の利便性の向上と企業活動のしやすい環境づくりに努めます。

また、市民参加による公園・緑地や水辺の整備・保全、資源リサイクルによる循環型社会づくりに取り組むとともに、消防・救急医療体制の充実、地域の自主防犯・防災活動への支援、地震・風水害による被害の未然防止や原子力施設の監視強化などによる総合的な安全・安心の確保を図ります。

### (3) 元気で思いやりと優しさに支えられたまちづくり

保育機会の拡充や子育て支援体制の整備により、安心して子供を生み育てる事のできる環境をつくるとともに、高齢者をはじめあらゆる世代を対象として、スポーツやレクリエーションによる健康づくりや社会参加を支援し、すべての市民がいきいきとした暮らしを送ることのできる、活力にあふれたまちづくりを進めます。

また、市民が生涯にわたって必要なサポートが得られるよう、保健・医療・福祉の連携を図るとともに、福祉ボランティアなどを活用した住民参加による地域福祉の充実に努めます。

#### (4) 豊かな人間性を育み個性がきらめくまちづくり

世代を超えたふれあいやボランティア活動、職業体験などを通じて、子どもたちに社会の一員としての自覚を持たせるとともに、学校施設の開放や民間のノウハウの活用、PTAやボランティア、NPOなどとの連携を含め、学校と地域、家庭が一体となって、自ら判断し行動できる人づくりを推進します。

また、幼稚園・保育所の連携や教育施設の計画的な整備・改修などを進めるとともに、地域に根ざした生涯学習活動の促進、高等教育機関との連携による高度な人材の養成などに取り組み、さまざまな世代や要求に対応した教育のまちづくりを進めます。

#### (5) 協働と交流で築く活力に満ちたまちづくり

自治会をはじめとする地域団体やボランティア、NPOなどの活動の促進と男女共同参画社会の形成を図るとともに、市民の多様な活動の拠点を整備することにより、市民の力を生かした協働のまちづくりを進めます。

また、ITを活用した地域情報の収集と発信、本市を舞台とした新たなイベントの誘致や既存のイベントの活性化、国際親善などにより、幅広い交流の機会を創出し、協働と交流で築く活力に満ちたまちづくりを進めます。

### 4 土地利用

目指すべき都市像に即した均衡ある都市の形成を図るため、本市の恵まれた自然環境と地域の特性を生かした、適正かつ合理的な土地利用を基本とします。

#### (1) 都市的土地利用

環境の保全と自然との調和に配慮しながら、市街化区域の整備に努めます。ひたちなか地区周辺については、ひたちなか地区と一体となった都市的土地利用を促進します。

#### (2) 農業的土地利用

優良農地については、農地の持つ多面的な機能を生かすとともに、土地改良事業などによる基盤整備や農地の保全に努め、都市的土地利用との調和を図ります。

#### (3) 自然的土地利用

貴重な平地林や水辺を保全するとともに、市民の憩いの場とします。森林や斜面緑地は風致地区の指定などにより保全に努めます。海岸地域は保全に努めるとともに、市民と海とのふれあいの場として活用を図ります。

### 5 基本構想の推進方策

基本構想の実現に当たっては、社会経済情勢や市民ニーズの変化を的確に捉えながら、近隣自治体との広域連携を含め効率的・効果的な事業の推進を図ります。また、さまざまな公的サービ

スの提供を進めていくに当たり、行政と市民などの役割分担を明らかにする「ひたちなか市自立と協働のまちづくり基本条例」により、市民との協働のまちづくりを進めます。

## 第5 市民意識

第2次総合計画後期基本計画の策定に当たり、平成21年12月に満20歳以上の市民から無作為に抽出した3,000人を対象とする「まちづくりに関する市民意識調査」を実施し、対象者の37.8%、1,134人から回答がありました。(平成16年7月にも同様の調査を実施)

調査結果に見られる市民の意識やニーズについては、次のとおりとなっています。

### 1 住み心地・定住意向

住み心地については「とても住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」とする回答が82.4%→82.0%，定住意向については「ずっと今の場所に住み続けたい」、「できるだけ今の場所に住み続けたい」とする回答が77.4%→80.2%となり、前回調査(平成16年)から比べると定住意向が高まっています。

### 2 地域活動・市民参加

地域活動については、過去に何らかの地域活動に参加したことがあるとする回答者が64.4%→66.0%とやや増え、活動分野としては「地域の祭り、運動会などの地元行事」、「P T A、子供会など青少年健全育成活動」、「福祉ボランティアなどの社会奉仕活動」の割合が前回同様に高いほか、今回「スポーツ・レクリエーション活動」が13.6%→22.5%と増えています。

### 3 望まれる施策・暮らしの満足度

暮らしやすいまちづくりを進めるうえで、これから力を入れるべき施策としては、「保健・医療対策」(31.3%→43.6%)、「障害者、児童、高齢者などの福祉」(25.4%→31.4%)「消防、救急、防災、防犯体制」(26.1%→27.9%)、「自然環境の保全」(25.8%→20.1%)となっています。

生活の満足度については、「日当たり、静けさ、空気のきれいさ」(51.4%→53.7%)、「ごみ処理やリサイクルなどの環境対策」(37.9%→46.2%)という環境への満足度が高いのに対して、「公共交通機関の利用のしやすさ」(45.7%→47.1%)、「身近な道路の状況」(48.7%→45.2%)、「職場の豊富さ、仕事の機会」(43.6%→42.1%)が不満であるという前回と同様の傾向が続いています。

中学生作文  
「私の住みたいまち」優秀賞

こんなひたちなか市になってほしい

勝田第一中学校 1年 笹沼 舞

私がこんなひたちなか市になつたらいいなと思うところは三つあります。

一つ目は、緑がたくさんあり環境がよいことです。外で深呼吸をして気持ちいいと思えたり、外を見て心が安らぐような街になってほしいです。それには、みんなが緑を大切にする意識をもつことが大事です。

二つ目は、便利さです。むじゅんするかもしれません、自然を守ろうとして自分達が不便を感じたら私達が困ります。植物は地球に住む「住民」ですが、私達人間も「住民」です。便利な施設や設備を整えることも必要です。私は家族で「あおぞらバス」を時々利用します。みんなで出かける時に駅まで自家用車を使わずに行けるので、時間が合えばとても便利です。もっと色々な場所にバスが走れば、利用者が増え、さらに便利になると思います。

三つ目はマナーや決まりを守れることです。みんながきまりを守れば交通事故や犯罪などが減ります。

マナーを守れば、そう音などの公害やゴミのポイ捨てなどが減ります。

そうなっていくには、一人一人が普段からマナーを守る意識を持つことが大切です。

ゴミのポイ捨ては、  
「自分だけなら大丈夫。」  
と一人一人が思っていたら結局みんながゴミを捨ててしまうので、一つのゴミがいっぱいのゴミになってしまいます。一人一人が気をつけていればゴミは減り無くなっています。

緑がたくさんあって便利でマナーや決まりを守れるひたちなか市。

そうなればみんなが楽しく過ごせて明るい笑顔が絶えないひたちなか市になると思います。